

「決算報告書より」

財務理事

伊藤 瑞男

去る5月23日に行われた東京神学大学評議員会・理事会において、2010年度の決算が承認されました。

当年度の資金収支計算書を見ると、収支の規模が、前年度よりも、3億7千万円も大きくなっていますが、これは主として内部の資金移動によるものです。すなわち、移転基金1億5千万円など第3号基本金を取り崩して減価償却引当特定資産へ繰り入れたり、公債の形で持っていた第3号基本金引当特定資産2億3千万円余の買い替えをしました。これは、学校法人の会計基準に照らしてより健全な形にするためでした。

しかし、東京神学大学の収入の柱である学生納付金、私学助成金、寄付金の大きさはあまり変わっていません。

私たちの祈りは、特に教会賛助金が増えることですが、前年比3百万円近く増加していることは、よいしるしであり、励まされています。また後援会献金は少し減少しましたが、学生寮のエアコン整備のため3千5百万円の特別寄付金を今年初めからお願いしたところ、3月末までに予想以上にいい応答をいただいたことに感謝しています。

支出面においては、極力節約をしたため、次年度繰越支払い資金が9千8百万円余となりました。この中には、エアコンの資金も入っています。